

### (3) 研究主題

「へき地校における国語指導についての問題点とその対策（読解力をたしかめるにはどうすればよいか）」に学校長を中心として研究が進められている。

一般に農村の子どもは、都会の子どもに比して読解力が劣るといわれている。読解力が劣っていると、それが単に国語という1教科にとどまらず、あらゆる教科に影響して、子どもたちの学力向上、ひいてはまた人間形成の上に大きな障害になってくる。このような観点にたつて主題が設定された。

本年度研究の結果から、指導法についての問題点を概略あげてみる。

- 児童の個人差を考慮した授業の尊態のくふうがなされている。
- 教師中心の授業形態から、これをどのようにして自発的、自主的な学習にするか研究が進められている。
- 教師自身が実力をもたなければならない。特に国語の文法の知識を身につける。たとえば助詞の使い方と意味、文論では主述の承応や語の承応など、文章論では文章の構造を分析する方法などはじゅうぶん研究する必要があると述べられている。

本校の特色は、各種調査により問題点を解析し、それに基づくところの実践研究がなされ参加者一同に深い感銘を与えた。

## 4 複式学級指導計画例（図画・工作）説明会

文部省主催で、東日本地区「複式学級図工学習指導計画例」説明会の資料を中心とする伝達説明会である。

### (1) 期日、会場

- 6月10日（水）中通り会場 田村郡三春小学校
- 6月12日（金）両沼会場 河沼郡坂下小学校

### (2) 講師

福島県教育委員会事務局信夫出張所  
指導主事 古山直一  
福島県教育委員会事務局北会津出張所  
指導主事 鈴木栄

午前中は、文部省編の指導計画例作成の趣旨とその取り扱いについて説明がなされた。

午後は教材研究をかねて実技研究を実施し、低学年はえのぐの使用した実技、中、高学年は中厚紙を使用したところの実技研修を行なったが参加者は非常に熱心に意見の交換がなされ、実技においても童心にかえり、りっぱな作品ができたことである。

へき地教育の問題点については、学習指導の面においては、基礎教育の徹底、1対1の考え方にたつ指導の実践、あるいは教具教材の現代化といった、いくたの問題が内在しているが、この説明会をとおして問題点を少し

でも解決の方向に努力されたことは、今後の発展に大きな期待がかけられるものである。

## 第9節 特殊教育

### 1 盲聾学校

目が見えない、耳が聞えない、このような障害のある児童、生徒で普通の学校教育でほとんど効果を上げることができないので、特殊学校で特殊教育をほどこしている。

#### (1) 特殊教育学校の現状（昭和39年5月1日）

種別	学部	学 部					計
		県立	小学部	中学部	高等部	専攻部	
盲学校	福島	4	2	3	2	2	13
	郡山	4	4	—	—	—	8
	平	3	3	—	—	—	6
	津会	3	2	—	—	—	5
聾学校	福島	7	4	6	—	—	17
	郡山	11	5	—	—	—	16
	平	10	3	—	—	—	13
	津会	8	3	—	—	—	11

#### (2) 東地区聾学校研究会

- ① 期日 10月8日（木）
- ② 会場 県立聾学校
- ③ 研究主題

「学習効果を高めるために学習指導をどのようにしたらよいか」小学部

「高等部国語科における個人差をどのように取り上げ授業を進めたらよいか」高等部

#### ④ 研究討議

- ア 授業の面での資料の作り方と取扱い方について
  - 絵の書き方と取り扱いについて（社会科）  
授業の中に時間をとって書くか、教師が準備すべきか、は、子どもの能力、生活経験の上に立てやることが望ましい。方法としては、絵カードなどを使ってもよいが、聾生の特性を考慮して、紙芝居にして言葉として覚えさせた方がより効果的でもある。

#### イ 単元と時間について（社会科）

総合学習としての考え方を、はっきりさせる。  
1、2年においては総合的に取り扱い、3年からは分科指導になる。総合学習については指導計画の立て方をくふうし、総合学習としての目標か、各教科としての目標かをはっきり区別する授業の運用は総合的であっても社会科としての目標をしっかり押えておくことがたいせつである。